

## 令和6年度3学期始業式式辞（全日制）

皆さん、あけましておめでとうございます。

昨年末の終業式の式辞で、私は「令和7年は巳年。巳年は新しい挑戦、前向きな姿勢を示す年と言われる。皆さんが、心に秘めた「負けん気」をしっかりと伸ばし、さらに活躍してくれることを期待している。」という話をしました。今、新しい年を迎え、皆さんは何に挑戦しようと決めましたか。そして、それを成功させるためにはどんな努力が必要なのでしょうか。

今日は、2つのことについて話をしたいと思います。

一つ目は、年末に映画館で観た「はたらく細胞」という映画についてです。この映画は、原作漫画の実写版で、赤血球や白血球などを擬人化し、彼らが協力しながら敵と闘い、私たちの体を守ってくれる様子を表現したエンタメ・アクション映画です。赤血球役は、永野芽郁。白血球役の佐藤健のアクション・シーンは感動もので、特に異常細胞役のFukaseと対決するシーンは人間ドラマとしても涙が出そうになりました。細胞たちは、昼夜を問わず、私たち人間の体の中で働き続け、互いに助け合いながら私たちの健康を守ってくれているのです。私は自分の体の管理をすることの大切さを改めて感じました。また、映画の中で、赤血球は約120日、白血球は約8時間の寿命で絶えず生まれ変わっていることも知ることができました。

実は、人間も二度生まれると言われていています。最初の誕生は、母親の体内から赤ちゃんとして生まれること。そして二度目の誕生は、人間として成長し、社会の一員として自立することです。特に、二度目の誕生以降は、様々な経験を積み、多くの人と出会うことで、人は成長し、自立していくのです。その過程では、失敗して落ち込むこともあるでしょうし、壁に突き当たって悩むこともあるかもしれませんが、でも、そのような悩みを乗り越えてこそ、私たちは成長できます。この成長こそが、本当の意味で「この世に生まれる」ということなのでしょう。

もう一つは、メジャーリーグでも活躍した元野球選手のイチローさんのことです。彼は、2020年から高校球児への指導を続けています。以前は、私立の甲子園常連校を中心に行われていましたが、昨年11月に、10校目として県立岐阜高校が選ばれました。岐阜高校は創立151周年の進学校であると同時に、春夏合わせて6回も甲子園に出場しています。イチローさんは2日間の指導後に、岐阜高ナインを集め、こう言ったそうです。「皆さんの学校は県内のトップの進学校らしいですね。僕は高校生の頃勉強をしたかったのですが、野球に専念する学校だったので、皆さんのことをうらやましく思います。皆さんは甲子園という目標を持って頑張っているけれど、その先の人生の方がもっと大切です。この日本を背負っていく人材が皆さんの中にもいるかもしれません。」「皆さんは、賢い、勉強ができるだけじゃなくて、人が言ったことを、まず真摯に聞く姿勢を持っているし、それを噛み砕く能力、形にする能力がすごく高いと思いました。これはもう野球だけにはとどまらず、皆さんの可能性をすごく感じました。」「社会に出た時に、目標に向かって自分なりに頑張った経験で過ごす生きると思っています。自分なりに頑張ってきた蓄積というのは必ず役に立ちます。皆さんは、僕にすごい刺激を与えてくれました。」「岐阜高ナインは、勉強も頑張り、部活動も頑張る、まさに「文武両道」の高校生活を送っていると言えるでしょう。イチローさんの言葉をもう一度、反芻してみましよう。「自分なりに頑張ってきた蓄積は、必ず役に立つ」。これは野球だけの話ではありません。西条高校の皆さんは今、何を「蓄積」できていますか？また、これから何を「蓄積」して行きたいですか？

それでは、皆さんが3学期も素晴らしい活躍をしてくれることを祈って、式辞とします。